

会 議 録

会議の名称	平成27年度 第2回豊中市図書館協議会		
開催日時	平成27年(2015年)11月27日(金)18時00分~20時00分		
開催場所	豊中市立岡町図書館 集会室	公開の可否	㊦・不可・一部不可
事務局	読書振興課 岡町図書館	傍聴者数	5人
公開しなかつた理由			
出席者	委員	舟岡 直子 日下部 雅彦 齊藤 雅美 天瀬 恵子 松田 美和子 岸本 岳文 渥美 公秀 瀬戸口 誠 樋口 名子	
	事務局	吉田事務局長 小川次長 北風岡町図書館長 須藤庄内図書館長 虎杖千里図書館長 松井野畑図書館長 島津岡町図書館副主幹 山根岡町図書館副館長 中田岡町図書館副館長 永島岡町図書館主査	
	その他		
議題	1 「図書館サポーターについて」 2 その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

平成27年度（2015年度）第2回図書館協議会

日時：平成27年（2015年）11月27日（金）18時～20時

場所：豊中市立岡町図書館 3階集会室

出席者：（敬称略）

委員 舟岡 日下部 斉藤 天瀬 松田 岸本（委員長） 渥美 瀬戸口 樋口

事務局 吉田 小川 北風 須藤 虎杖 松井 島津 山根 中田 永島

開会

資料確認

●委員長

それではお手元の次第に沿って議事を進めさせていただくが、ここで図書館協議会の運営方法について、委員の皆様にご了承いただきたい。図書館協議会の運営方法として、豊中市では原則として審議会を公開しており、傍聴については10人を定員にしているが、定員を超えた場合の傍聴者の人数については、その時の状況を見ながら私の方で判断させていただくということによろしいか。なお傍聴の方にはアンケートをお願いしており、協議会を傍聴されてのご意見等をお伺いし、特に委員の皆様にもお伝えすべき内容については、報告させていただく。

次に前回会議録については事前に送付されたものに委員の方々のご意見はなかったのですが、公開の際にはお手元の記録と同じように、概要として発言者については個人名を掲載せず、「委員」とのみ表記することを了承いただきたい。

それでは議題に入らせていただくが、先ほど申し上げた前回の協議会后に傍聴者からご意見をいただいたのでこれについて紹介する。

まず、本協議会における学識経験者3名については一定の評価を頂いているが、もう少しそれぞれの専門の領域を踏まえていねいな議論をお願いしたいという意見をいただいている。

もう一つは、サポーターというものが、場合によっては図書館の人手不足解消に使われるのではないかという危惧、職員のすべき仕事とサポーターのやることを明確にしなければならないという意見もいただいた。基本的には何のためにサポーター導入するのか、そこをきちんと押さえて議論を進めてほしいという意見があり、その上で自立した市民というものについてしっかり討議してほしいということ。それとこれまでの市民との協働もきちんと踏まえてほしいとのご意見があったことも追加しておく。

私としては、単純に言って、学びによって市民が自立していくのをサポートする、社会的にその事を保証していく場が図書館である。そういう意味でも図書館側がしっかりした視点をもって取り組んでいくべきであり、サポートをし

たいと考える市民が出てくるような図書館をつくるべきだと考えている。実際に前回はこれらについてあまり議論が深められていいなかったところもあるので、今日の議論も含めて少しまとまった形で協議会の意見として明確にしていきたい。

前回の議論を受けこうした市民の参加・サポーターについて、渥美委員に専門的知見や経験・活動を踏まえて、少し丁寧にコメントをお願いしたいと思う。

●委員

図書館サポーターとなると専門ではないので、ボランティアとして市民の方が関わるということを経験という場での経験・観点からの意見になるがコメントさせていただく。ボランティアが来ることにより図書館職員の仕事を減らして、安上がりの労働になるという危惧より、むしろボランティアが来ることにより、その方たちにプログラムを提供しなければならないことで、職員の仕事はもっとしんどくなるというのが普通だろうと思う。

まず勘違いしてはならないのは、ボランティアは無償あるいは安上がりの労働力という考えは間違いで、ボランティアの方々は労力を提供するというより新しい発想をもたらしてくれる、それが実感としてある。やりがいか自分の意見が言える、やりたいことを自分から言う、そういったことで自立した市民に成長していく、これがボランティアを入れることの意義で、労力の無償提供を受けるということではないということは明確に表明するほうがいい。民間の活力を入れるという議論があり図書館がよくその標的になるが、現状の報道などを見ていると経営をより円滑化することやコストの話になるが、ボランティアに来てもらうことやこういったサポーター制度を上手く運用することが民間の活力を入れるということになると思う。

ボランティアについて考える上で大事な事が2点、まず1点目は、今までも図書館に関わる団体を通してのボランティアの方々と直接サポーターとして来られる方とは違う。団体経由の方はその理念に賛同し活動の場がたまたま図書館であるということ、他方直接来られる方は図書館の理念は何かを考えるのではない。サポーターの具体的な活動内容を考えるのも必要だが、どういう理念でもってサポーターを受け入れるのか、これを押さえておくことが重要。例えば災害で活動されるボランティアには二種類あり、NPOの理念に賛同してボランティア活動をする人と何かしたいと現地ボランティア受入場所に来る方達。NPO経由のボランティアは、活動内容をその理念と照合しながらNPOもボランティアもチェックしている。一方、社会福祉協議会などが開設する災害ボランティアセンターに来る人たちは、一般の人を対象としている社会福祉協議会が福祉の全般的な理念を語れても、災害の被災者によりそうなどの理念がうまく理解できないこともあり、被災地で何をすべきか迷われる場面もある。これを図書館サポーター事業にあてはめてみると、やはり図書館の理念を図書館サポーターにしっかり説明していく、サポーターの実績作りだけの場ではな

いことを理解してもらおう努力を常々していくことが重要だ。

2点目は、色々なボランティアについての研究を見ていると、活動動機を調査していることが多いがそれだけでなく、成果が何なのかという事を問う必要性があるのではと感じている。図書館サポーターがこなした仕事量という成果でなく、サポーターがやりがいを得ていくなどの成果こそが重要であり、地道にやったださるだろう活動をどう評価するかが大事になってくる。たとえば、被災地ではボランティア活動の切れ目ごとに、ボランティアの方の活動状態を把握しながら、各人の具体的活動に評価をして謝意を述べる。そうしてボランティアの成長を見守りながら、その方々自身で活動内容を討議しより良いものしていく作業をしている。図書館サポーターに当てはめると、サポーターの自主的な作業を進めて成長する姿を待つことができず、職員が自分でやったほうが早いと考えたり、異動で担当職員が代わることで市民サポーターに無頓着になったりなど色々な問題が出てくるはずである。サポーターを安上がりの労働力にしないどころか、もっと酷いことになる可能性もあり、それを乗り越えながらやらなければならない難しい活動でもある。また、団体を通して図書館に来られる方と個人参加の方の共存の問題は、交流を深める中で活動の住み分けを行うことで可能であると思う。

最後に契約とトレーニングをどうしていくのかという問題だが、契約という言葉が妥当かどうかは別にして、サポーターを希望される方に理念を詳細に説明して、それでその方が納得すれば契約になるのではないか。トレーニングも技術的なものは詳細には必要なくとも、ある程度の説明はすべきだ。理念を説明しそれに則った活動をしていく中で図書館サポーターの成長の様子をフィードバックする、これが民間活力導入による活性化ということに繋がると考える。

●委員長

話を聞いて、図書館がどんな理念をもって運営していくのかが一番強く問われているという感想を持った。図書館サポーターが何をしたか(アウトプット)ではなく、何を得た(アウトカム)か、を意識する活動だと考えるが、そこをきちんとやる気まがえが必要だ。

図書館側のサポーターに関する現時点での考えを、事務局から説明をお願いする。

●事務局

では、資料1：第一回協議会論点整理図書館サポーターについて資料説明する。これは事務局からの提案の趣旨と前回協議会での意見をまとめたものである。表の左上が導入の動機・目的・留意点についての意見、その横の「要素」とは、それについて具体的な意見として出されたもので、その横の「効果」とはアウトカムとして市民側に期待される効果で、その結果として図書館に想定される効果。そういった枠組みで記載しているので、これをもとに議論をお願い

いする。

●委員長

市民に想定される効果、何を市民に実感してもらえるのか、サポーター制度を導入することによる図書館側のメリットより、今までと異なる形の図書館の関わりの中で、色々な発見なりやりがい・満足などを感じてもらえるようにしていくべき。結果として市民の方々の図書館への理解が深まる、そのことが図書館を支えてもらえることにつながるとまとめていただいたと思う。

●委員

アウトカムとしてなにを得たのか、まず仕組みとしてよく話し合う場を作ること。被災地のボランティアですと、活動時間は5時間ほどで後の5時間を反省会に当てる。個々の意見を出すなかで今後の活動にフィードバックされていく。参加者がその意義を実感できる、そんな時間を持つことが大事だ。言うはやすしだが、図書館でもそこは手をかけるべきところだと思う。

●委員長

サポーターの仕組みをどうするかということより、その成果は参加者が自分で発見するしかないもので、自分で発見し納得する仕組みを作ることが重要だ。

●委員

サポーターが得るものは、個々違うと思う。具体的には今ここでは言えないが、感動したとか、働くことの大切さなど図書館側がサポーター個々の思いを全部受け止めていく、それが大事だと感じた。図書館の資料でも図書館の理念は記載されているが表現が難しい点もあるので、最初の時点で平易な言葉に換えて説明することが大事である。

●委員

子どもたちを広島原爆資料館に連れて行った時、サポーターがいらして、子どもたちに熱心に話しをしてくれ、また外国人に英語で説明をする高齢の方もいた。凄いなと思って聞いていると、原爆の悲惨さを伝えたいから高齢になってから英語を学んだ、ということで主体的に自分の生きがいとして動いておられるのを見た。そういう主体的な思いを持った図書館市民サポーターが来られたなら、豊中の図書館の特色が出てきて、図書館って素晴らしいなが変わっていくと思う。

●委員

以前に会社員をしている時、企業としての利益追求だけでなく、企業も良い商品を顧客に手渡すことで満足して頂く、そういう意味で公共性があり、社会

性のあるものだと感じていた。一方で、企業で働くこととは別になんらかの形で社会に還元や貢献したい思いもある。ボランティアとは語源的に自発的なものという意味になるが、私個人としては、自発性の中身は深く考えなくていいのではないか。自己満足、達成感などもその人個人のもの、何かを返してあげるとかあまり複雑に考える必要がないのかなと思う

●委員

さきほど委員の団体経由と個人参加のボランティアの思いの違いやそれぞれの立ち位置の発言を聞いて、サポーターの説明を受けて自分ならどんな気持ちで参加するだろうと考えた。図書館のサポーター制度も学生、主婦、リタイアされた方などが同じ理念を説明されても受け取り方は違う。それぞれの方々が興味を持ち参加の意義が解るような個々人の思いに応えられる制度であってほしい。一人では躊躇するけれど、近しい人に誘われてというのも結構あると思う。誘われて初めは消極的だったのが、関わるうちにやりがいを感じるようになり、また横の繋がりが参加のきっかけとなるなど市民と図書館との関わりの広がるきっかけになるのではと感じた。

●委員

委員の発言にもあったように市民に想定される効果は、幅を持って考えていく方がいいのではないかと思う。最近図書館の中で出ている考え方として、利用者に来てもらい図書館がサービスを提供する従来の形だけでなく、むしろ図書館が利用者のほうに出向いてサービスを提供する。この考えは、資料がデジタル化して図書館の建物自体に行く必然性が少し減少していることへの対応として、アメリカの大学図書館を中心に出てきている。従来は図書館に来館される方、関心のある人たちへの色々なサービスの展開がベースとしてあったが、前回の協議会でも言ったように今回のサポーター制度も、そういった利用者あるいは一般市民の中にある図書館というものが、図書館の方が利用者から図書館に何かもたらしてくれる視点というものを、このサポーター制度はもたらしてくれるのではと考える。市民に想定される効果よりも結果として図書館側にもたらされる効果をどう考えていくかが大事になる。それと委員長の発言にもあった図書館側がサポーター受入時の懐の深さや柔軟性を持つことが重要。サポーター制度を考える上で理念を図書館側も含めて効果というものを考えていくべきだ。

●委員

自立した市民や自分で自発的にするという考えからすると、効果の想定という考え方はちょっと違うのではないか。ではどうするのか。自分でやりたいことを見つけるのも難しいし、やりがいを持つには具体的にどうすればいいのか、すぐには思い浮かばない。さきほど自己満足でいいのではないかという意見も

あったが、図書館は公共的な施設であるので、市民のこれをやりたいと思いが必ずしも公のためになるとはかぎらない場合も考えられる。そんなことが思いとしてある。

●委員

資料を読んで思ったことは、結果まで想定しないと進められないけれど、ここに書いている成果というものはそんなにすぐには現れない。図書館としては、どの程度のスパンで成果が上がれば運用してよかったと考えているかが見えない。確かに文字にするとうまくまとまっているが、失礼な言い方になるがきれいな事が書いてあるなあと感じた。おそらく、なかなかうまくスマートには進まない制度だと思う。もっと図書館の理念を詰めていってもらわないと話の前に進まないのではないかと思う。

●委員長

一人一人が大それたことではなくそれぞれ違う動機、小さなきっかけから入ってくるだろう。それを本当に社会的な意味を持つものにしていくのが図書館の力量であり気構えになってくる。図書館の場でやるということは、参加される市民の個々の思いを掬い上げて大きな仕組みの中で社会に戻していくことができるかどうか、そこが問われている。その仕組みがうまく機能すれば、生きがいややりがいを持った様々な市民が生まれてくる。先ほどの委員の発言の想定の中身については、参加する方たちが話し合うことの大切さ、その中で一人一人が成果を発見してくれるかどうかにかかっている。あくまでも図書館側としては事業をしなければならぬので一定の想定はするが、やはりサポーターが成果を自分達で発見していくところにしか得られるものがないのではないか。図書館側が何故今なのか、小さな動機を持って参加する方たちに理念も含めそのことをちゃんと伝えることができるかが問われている。

事務局から何か補足することがありますか。

●事務局

図書館側から今何故ということについては、図書館からの一方的なサービスではなく、幅広く市民の方一人一人にとっての図書館のありようをまず聞きたい。それには、利用者と図書館という関係ではなく、さきほどから出ている図書館の理念を解っていただいて、市民の視点から図書館への色々な意見をいただける仕組みにしたいと考えている。自立した市民ということについては、図書館と関わってのそれぞれの活動を通して、様々な方と活動することで市民がその道を見つけていただければと思う。最初から明確な考えを持って参加される方を対象の活動ではなく、活動を通して発見していく形になればと考えている。そういう意味で提案させていただいた。

●委員長

前期の図書館協議会の中で、図書館サービスは従来のように利用者を待つのではなく、カウンターからフロアにでていくサービスの重要性、利用者がある場で利用者のニーズを把握する。そしてフロアに出て行くだけで終わるのではなく、図書館から町に出て行くことも問われているという重要な指摘があった。つまり、そのことにより利用者が図書館に求めているものが見えてくる可能性。このこともサポーター制度導入の動機のひとつになっている。それを踏まえて、何かご意見があれば。

●委員

図書館サポーターとしてどんな人が集まってくるのかを見れば、市民が今図書館をどう見ているのかがわかる映し鏡になると思う。楽しみでこられている方や何か役に立ちたくて来る方などそういうものを見ると、図書館が市民からどういう位置づけをされているか分かるので、図書館にとっても入口でプラスになると思う。図書館の理念に関しては、前回配布された図書館活動の最初に記載があるが、やはり難しい。この長文の理念を全部理解して活動に参加してもらうにはどうするか工夫が必要。

●委員

私も再度、読んでみた。確かに難しい。実際にサポーター制度が始まる頃には、もっとやさしく理解しやすい言葉になるだろうと思う。しかし、理念の芯は曲げられない、そういうことだと思う。理念は素晴らしいことを書いてある。たとえば、市民の生きがい・心の豊かさ・生涯学習の推進などこれらは非常に大切なことで、まだ具体的な姿は見えてこないにしても、これらの位置づけとしてサポーター制度があるというのが共通の理解だと感じた。

●委員

立ち返りたい点として、資料1のサポーター制度を導入する動機・目的・留意点の項目だが、色々記載されていて図書館がサポーター制度を導入する動機が何なのか分かりにくい、突き詰めていうと図書館の支援者を増やすだと考えていいのか。物事を進めていく上でよく言われることは、ウィンウィンの関係であれば推進され、どちらかがウインで他方がルーズであればダメになる。先ほどの自己満足が達成できればいいという発言は、サポーター側のウインのことを念頭に置いている。そのとき場を提供する図書館がルーズだとおかしなことになる。では、図書館にとってウインとは何なのか。それは動機だと思うが、図書館とサポーターの間にウィンウィンの関係を作り上げること、そこを整理していくのが大事だと思う。

●委員

サポーター制度の中身についてはこれからだが、するからには魅力的なものにしていくことが必要。その魅力をどう感じるかは個々人により違うし、制度に参加する中での個々人の迷い、自分の能力への自信の有無、それらに対して理念をもっとはつきりと見える形に提案できたら、市民も自分の可能性を意識して参加できるものになると思う。

●委員

サポーター制度の導入に当たっては理念の理解が不可欠だが、図書館の理念というものは様々な利用者を想定しているので抽象的なものになるが、サポーターに向かって、こんなこともあんなことも出来るよという風に理念を提示しながら理解・共有してもらうことが大事。この制度によって図書館にもたらされる効果として、利用者からの視点が入ってくることが意義としてある。市民から見たサポーター制度の意義は何度も指摘されているように多岐にわたるが、生活の中に図書館を位置づけてもらうことが出来れば一つの意義になるではないかと考える。職を持っている世代にとって図書館は縁遠いことが多く、そういう人にとって図書館を生活の中にどう位置づけていけるのかも大事だ。そのことも含めてこういった制度を考えていく必要がある。

●委員

図書館の理念をわかってもらうのも大事だが、先ほどの渥美委員の理念が大事という話は何故サポーター制度をやるのかが重要で、それがないとフィードバックできないことや導入動機が大事になるということで、外からの意見を入れることでそれが明確になると理念への理解へとつながるということであったと思う。それと、自己実現・自立した市民もその点を明確にしないといけないという意見であったと感じた。図書館の理解もそれでいいのか。

●事務局

ウィンウィンの関係も大事だが、市民が自分の少し余った時間を図書館のために役立てたいという気持ち、図書館は市民に生きがいや達成感を感じられる機会を提供する。そんな中で図書館の有効な活用方法を広めてもらう応援団になってもらう、そういうことの両面がこの制度で達成できるのではと考えている。

●委員

図書館サポーター制度というのは、ボランティアという言葉は使われてないが、個人参加のボランティアと考えてよいか。

●事務局

個人参加でのボランティアとして考えている。

●委員

サポーター制度について、図書館側として本を借りてもらっただけでなく、もっと他に何かできることがあるのではないかと模索して事業展開することを考えたと思う。私が考えたことは、生活の中に図書館がある、市民に図書館の存在を常に認知してもらうこと。そのためには、市民から本を借りるだけでなく気軽に何かが出来るとあるいはやることのある図書館を目指しているのかなと考えた。

●委員

理念をわかりやすく説明するということについては、私が関係している災害ボランティア団体の理念は「思いをつなぎ寄り添いながら人々が安心して暮らせる災害に強い町づくりを目指す」と独特の言葉遣いで書いてあるが、まずこの説明から入る。その時抽象的な理念を平易な言葉で説明するのは非常に大事だ。入り口の動機は別にして来たい方は全て歓迎する方向、これも良いことだと思う。自立した市民に関してはあまり色々想定するのではなく、その場その場で臨機応変で対応していくのがいいと思う。それと困ったやり方をする人が来た場合、その場で話し合うことにして手間をかけている。他の委員から、成果はどれくらいでわかるのかという話だが、多分次に受け継ぐ人に自分のやって来た事を語れた時がおそらくそれが成果になると考える。

●委員長

現状認識として、これまでやってきた図書館経営とか運営の在りようを、そのまま続けていたのでは厳しい状況になっていくのは間違いない。これまでも、図書館は一生懸命に汗を流しながら試行錯誤してきたが、図書館だけでやってきた試行錯誤は、評価されないことが多い。そんな中でどうすべきかと言うと、図書館が自ら立っている場所を広く捉え直す時期が来ていると思う。住民の視点と図書館を運営する視点だけでなく、図書館の横に立って肩をならべる位置で図書館を見てもらう人としての市民からの視点を取り入れていく、そんなやり方が必要ではないかということだ。

図書館の横に立ってフォローしてくれる方々がいる、これが図書館を元気にする要素だと思う。

成果に関しては、また来たいという気持ちになれば、それが成果とっていいのではないか。それを他の市民に語ることで広がっていく、これも大きな成果になる。これらに見える形にするには、やりながら工夫するしかない。そうした工夫をすること自体が、図書館の内側や住民からとは違うもう一つ別の視点で、図書館をとらえ返す大きなきっかけになると思う。また、豊中の図書館が次のレベルに立てることになる。これが図書館と市民双方にとってウィンウインの関係ということではないか。個々のウィンウインはそれらを発見できる

場と仕組みをどのように作っていくのかにかかっている。図書館にとっては思った以上にしんどいスタートになるだろう。

資料2の説明を事務局に願います。

●事務局

資料2について説明する。図書館サポーターについて、メニューをあげることで具体的なイメージの参考にしていただくため、他市の図書館活動報告や図書館のWEBサイトなどの情報からピックアップした事例である。仕事については、大きく6つのカテゴリーに分け、合計16項目挙げている。項目右側の○・×・△については、現時点で、「サポーターにやっていただきたい」と思われるものに○、「図書館としてサポーターではなく職員が担うべき」と思われたものには×、「条件付きでやっていただけるもの」には△を付けた。資料の配架や郷土資料の整備・分類については、図書館職員が担うべきものとして、また、行事等の企画実行については今後の検討課題として、×にしている。郷土資料のデータベース化については北摂アーカイブスの中で検討しているので×とした。その他の△の条件付きとは、サポーターの経験や技術などの蓄積が必要とされるものも含まれているため一定の条件整備が必要だと考える。他にもいろいろな項目や○×△としたものについても様々な見方で変わってくることもあるかと思う。あくまでも材料の一つとして検討いただければと思う。また、昨年引き続き、本日庄内図書館で開催した「大人のための仕事体験ツアー」ですが、参加者へのアンケートで本の修理をやってみたいという声が大きかったということも報告させていただく。

●委員長

色々な事例があるが、豊中の図書館として基本的に図書館が責任持つべきものは線引きをして×をつけている。やってもらうことに範囲、条件を設定すべきものは△、ということです。こういったメニューを募集に際し用意するのか、あるいはこういったメニューを具体的に提示せず募集するのか、この議論も必要だ。意見をお聞かせ願いたい。

●委員

少し話がずれるが、利用者がそれぞれの図書館利用方法を発表してもらう機会があればと考えている。海外での図書館のサイトを見ると利用者の図書館利用による成功体験が書かれていることが多く、日本はあまりない。たとえば、利用者端末の補助作業ということなら、もう少し広げて端末の利用に関してのより深い使い方を利用者自身が情報発信することで、図書館と利用者や利用者同士の間での柔軟な図書館の在り方が見えてくるのではと思う。最初はメニューで見せない形の方がいいと考える。そうすることでその方向だけでなく新たな視点が見えてくると思う。

●委員

これ以外に何かもっと面白いことはありそうな気がするが、そういうのはあまり示さないほうがいい場合もある。しかし、なければ判断に迷いそうで難しい所だと思う。こういうのがありますではなく、自分達で見つけられる仕掛けがあるといいと思う。

●委員

メニュー出しに関してはどちらでもいいと思う。自発的な参加とは別に、図書館側からこんな内容で参加を募集しますと示すことができないか。その両方を並列でやっていく。それもいいのではないか。

●委員

自発的に来られた方に、メニューの様なものを見せると逆にやる気をそぐ場合もあるので、最初は示さないでどんなものがありますかと聞かれて初めて提示する方がいいと思う。たとえば、さわる絵本の講座を図書館で開催して、その講座での達成感を感じてもらいサポーターに興味をもってもらう。こういう仕組みが、職員に頑張ってもらわないといけないが必要ではないか。花壇の整備の講座なんかもガーデニングに興味ある人などが来るのではないか。待つのでなく興味をひいて来てもらう努力も必要になってくる。

●委員

私も最初に市民が何をしたいかを聞く。その後でやってもらいたいことを示す。行事なども企画段階から参加を募ることも考えると市民目線の企画案がでてくるかもしれない。そんな中から回数を重ねて参加された方がリーダーになっていく。例えば花壇のことであればうちの学校で育てた花を参加された保護者達に図書館で植えてもらう。こういう図書館をサポートする形の中でふくらんでいくしつなげていけると思う。

●委員

安上がりの労働力にしないという意見について、最初見た時何が悪いのかなと実は感じた。無償で奉仕したい市民と予算が厳しくなっていく図書館双方の思惑が一致するわけですから別段不都合はないと考えた。それと同じで、サポーターについて具体的な例示があった方が、市民から見て社会に何かを還元したい気持ちを活かすために、たとえば、何をしたいかがわからない市民に向けてメニュー出しも必要だと思う。一方で何故サポーターを導入するかという視点から見ると、図書館の横に並んでそこから一緒に考えてくれる市民が必要だということもよく理解できる。図書館の将来のあり方を考えると、安上がりの労働力という観点ではなく、市民からの考えを募る制度でもあるという考え

方も重要だと思う。また、よく図書館にやってくる利用者として見えてくる改善点を意見として言ってもらっただけでなくやってもらうチャンネルも必要であると考ええる。

●委員

サポーターの具体的なイメージが意見として出ていると思う。細かい作業や黙々と動くことが得意である方には具体的なメニューがあれば有効だが、一方で企画的なことをやりたい方にはイメージとは少し違うと感じるのではないか。それとサポーター制度を説明する時には文字だけでなく映像などで可視化して説明することも大事になる。特に若い世代に対して有効だと思う。

●委員長

安あがりの労働力にしてはいけないと言う傍聴席の指摘は、本来的に職員が責任をもって担う仕事を肩代わりさせてはいけないという願いがあったと思うが、一方図書館の仕事を広げていくためには労働力として機能してくるということは当然あると思う。

協議会として意見をまとめていかなければならないが、最初は、サポーターの導入するに当たって気をつけるべき点や注意すべき所はこうですよといった枠をはめ線引きをすることを考えていたが、皆さんの話を聞いていると、今までの意見を踏まえて図書館はサポーター制度をこういうふうに進めて欲しいという方向でまとめたほうがいいのかと思う。図書館側がまず考えをはっきり説明しながら一人一人が自分達のやりがいを実感できる場を提供していく。枠を嵌める意見ではなく、出来たら自由度が広い形でいろんな視点を取り入れながら進めて欲しいという形でまとめていく方向がいいですか。

●委員

それでよいと思う。サポーター制度で得た経験や知己などは財産になる。人同士を繋ぐことが出来る、そういう制度でもあると思うので始めるにあたってはその点も大事にして欲しい。

●委員長

今までの話にあったように、図書館サポーター制度の可能性を広めていくためにはどうすべきか、定着させていくための仕組み手続きをきちんと踏まえながらまとめていきたい。次回開催は、年度内最後になるが、具体的な議論ができればと思う。その方向でどうでしょうか。(異議なしとの声あり)

後、事務局から何か報告がありますか。

●事務局

資料3「ラウンドテーブル 南部地域のまち・ひと・夢・未来を語りあおう!!

をご覧ください。第1回の図書館協議会実施以後の仮称南部コラボセンターに関する動きを報告させていただく。南部コラボセンター基本構想推進会議の第2回意見情報交換会として7月14日にコラボセンター（サテライト）に備える高齢者に必要な機能について討議が行われた。また、9月3日には南部地域における図書館のありかたを市民、職員が意見を出し合うラウンドテーブルが開催された。ティーンや中高生、外国人などだれもが気軽に立ち寄れる居場所として、また必要な資料や情報を獲得や人と人が交流できるといったことについてハード・ソフト両面で意見が出された。

10月26日、11月9日の両日は第3、第4回の意見情報交換会としてキャリアセンターやキャリア教育についての機能をテーマとして、開催された。近隣の小中学校の校長、コミュニティビジネスに関わる事業者や就労支援に関わる団体、商工会議所や市職員が南部地域の課題をふまえたキャリアセンター機能のあり方について討議を行った。今後の予定としては、第2回の仮称南部コラボセンター基本推進会議が年度内にもう1回行われる予定です。

続いて資料4のブックスタート事業「えほんはじめまして」の効果についてですが、平成15年に4か月児健診時に絵本の楽しさを体感し、地域で子育てを応援していることを伝えるために、「えほんはじめまして」を千里公民館および保健センターの2か所の4か月児健診会場で試行を開始した。その後、取組館が拡大するとともに、一組一組の親子に丁寧に声をかけることから、ボランティアスタッフと職員との市民協働の事業となっていく。平成23年8月からは絵本を手渡し、ご自宅ですぐに楽しんでいただける「ブックスタート事業えほんはじめまして」を開始し、今年度5年目を迎える。資料4は、この5年の取り組みを振り返り、その成果、効果について表したものです。絵本をもらったことで読む機会が増えたという保護者は73%となっている。これらの成果もふまえ、図書館としても豊中に生まれるすべての赤ちゃんと保護者に出会えるこの機会を重要な事業と位置付け、今後も継続していく予定。最近では「広報とよなか」の10月号に取り上げられたほか、来年1月には尾道市から視察予定も入っていることを合わせて報告させていただく。

続いて資料5ですが、11月12日に市民活動情報サロンにて「市民活動X図書館～地域の課題解決に向けて」が実施され、職員が図書館の機能などについて情報提供させていただいた。最近の課題解決支援サービスなどについても触れたが、「そういうことを図書館がやっているとは知らなかった」との声もあり、こういう機会をとらえて図書館から市民・地域に発信していく重要性を再確認する機会ともなった。

資料6は、とよなかブックプラネット事業推進委員会主催で平成27年度子ども読書活動フォーラムが来年1月16日に豊中市立アクア文化ホールにて開催される予定。説明は以上です。

本日お渡しする冊子「豊中物語」11月号VOL4は、都市活力魅了創造館が作成したもので、豊中の多彩な魅力を紹介している。「道をひらく」というコ

一ナーに1985年から2003年まで本協議会の委員であった豊後レイコさんが掲載されているので紹介する。

●委員長

只今の報告にご意見はありますか？

ないようですね。

次回協議会ですが。来年2月18日木曜日18：00～20：00の予定です。

これで第二回図書館協議会を閉会する。